

第 14 回 サロン時間学

日時
場所

平成 28 年 7 月 4 日（月）13 時 00 分～
時間学研究所 所長室

話題提供者

寺尾将彦先生（時間学研究所 時間心理学）

「サロン時間学」とは。。

ヒトの時間、社会の時間、機械の時間、心の時間・・・

この世の、あらゆることから時間と関係しています。

どこにどれだけ「多様な時間の姿」があるのか？

研究の話でも、思いつきでも、突拍子のない考えでも、便乗発言、大いに歓迎！

気ままに、話の赴くままに、お茶を飲みながら語ってみませんか？

飛び入り参加、
途中入退室
OK！

参加自由

「視覚世界における今この瞬間の時空間構造」

網膜を始めとする視覚系の初期処理機構は視野の中心付近の空間解像度は高いが視野の大部分を占める周辺領域の空間解像度は非常に低いという構造になっています。この構造がそのまま見えに適用されたとすると、曇りガラスを通したようなぼやけた世界が見えるはずです。しかし、実際にはそのようなぼやけた世界を見ることはありません。私達の脳内には荒い入力から鮮明な画像をつくりだす何らかの情報処理の仕組みが存在するはずです。今回は視野の周辺では画像情報が時空間的に広がった窓で統合され、それを要約したものが知覚や行為制御に利用されるというお話を紹介したいと思います。これは少しキャッチーな言い方をすると、私達が今見ているこの瞬間の視覚世界は実は少し前の物理世界を要約したものであると言い換えることができるかもしれません。統合窓の形状やその視覚表象が作り出される遅延時間などのデータを肴に、私達が普段体験している今この瞬間のありようを様々な角度から議論できればと思います。

